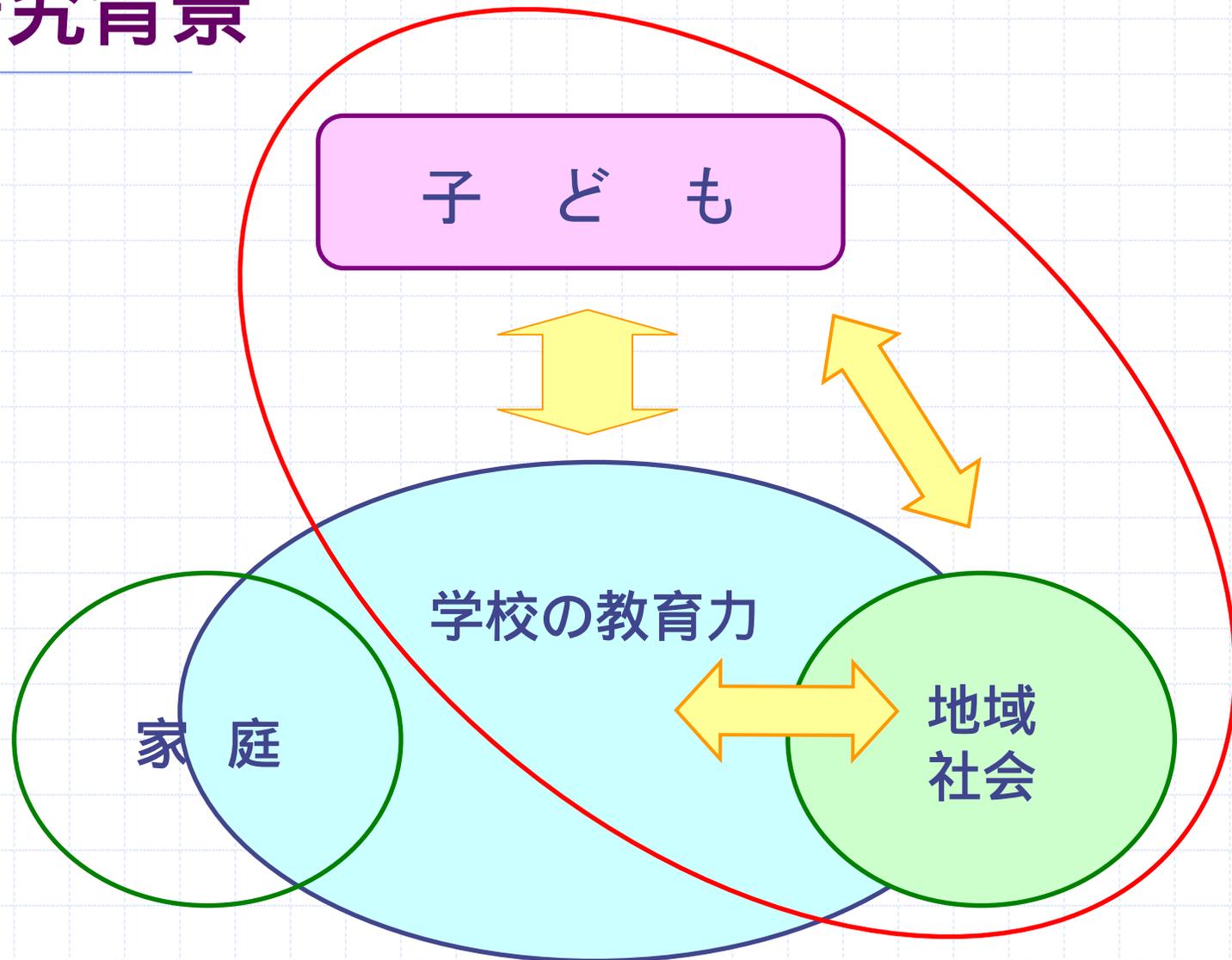


学習支援活動組織を活用した学 びの様相

上越教育大学大学院
小関 奈津子

研究背景



研究目的

- ◆ 学習支援活動組織が参画する授業での子どもの学びの実態を明らかにする。
- ◆ 学校の実情を踏まえた、学校と学習支援活動組織（NPO）との協力体制のあり方を考察する。

学校における地域の人材等の活用状況

地域の人材やボランティアの活用を実施

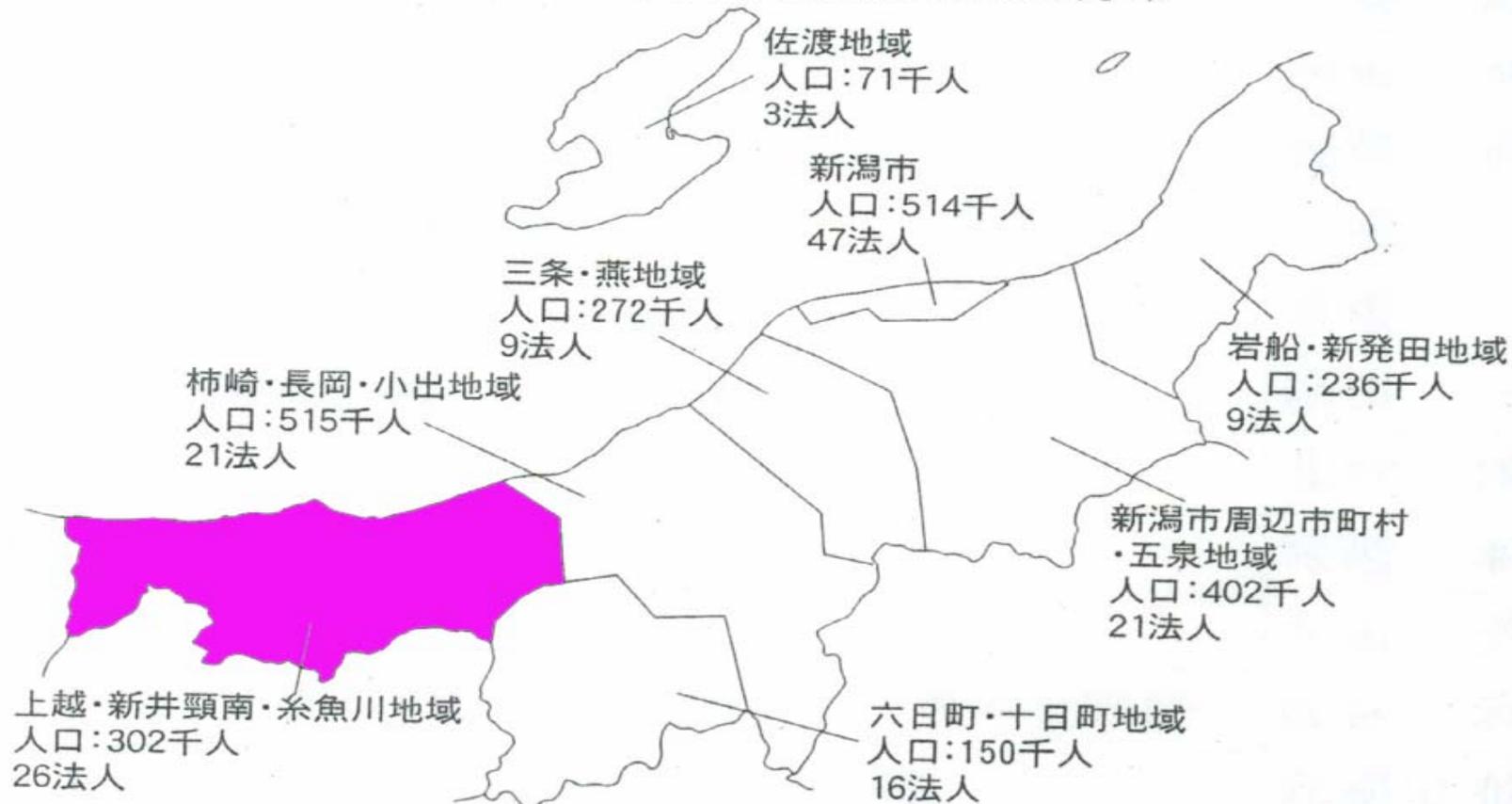
	小学校	中学校
新潟県	100%	93.2%
上越	100%	90.1%

◆ 教科・領域等における活用の実施

	小学校	中学校
新潟県	99.8%	90.0%
上越	100%	90.1%

NPOの法人分布

NPO法人事務所所在地の分布



調査概要

(1) 調査対象

新潟県N市立N中学校 1学年(総合的な学習の時間)

(2) 調査期間

2002年7月18日

2002年10月～2003年3月

(3) 調査単元

身近な環境を見つめよう

報道スクープ！N地区の自然の行方は？！

(4) 参画団体

A団体(2回)・ B団体(1回)・ C団体(1回)

調査手続き

(1) 生徒への調査方法

- ・テープレコーダー
- ・意識調査
- ・インタビュー

(2) 教員への調査方法

- ・インタビュー

(3) NPO団体への調査方法

- ・意識調査

総合的な学習の時間の流れ

2002.7.18.(2h)

A団体参画

「身近な環境を見つめよう」

～ 夏休み ～

2002.9.13.

B団体の自然体験施設へ訪問

2002.10.10.(1h)～

「報道スクープ！

N地区の自然の行方は？！」

2002.10.11.(2h)

各班地域探索

2002.10.18.(2h)

A団体参画 ワークショップ

2002.11.1.～11.29.(10h)

フィールド調査

2002.12.6.～

地域に向けて報道するためのまとめ

2002.12.13.(2h)

B団体参画 ワークショップ

～ 冬休み ～

2003.1.10.(2h)

今後の計画を立てる

2003.1.31.(2h)

C団体参画

「食べ物と命について」

2003.2.14. “発表会”

総合的な学習の時間の流れ

2002.7.18.(2h)

A団体参画

「身近な環境を見つめよう」

～ 夏休み ～

2002.9.13.

B団体の自然体験施設へ訪問

2002.10.10.(1h)～

「スcoop！」

N地区の自然の行方は?！」

2002.10.11.(2h)

各班地域探索

2002.10.18.(2h)

A団体参画 **ワークショップ**

2002.11.1.～11.29.(10h)

フィールド調査

2002.12.6.～

地域に向けて報道するためのまとめ

2002.12.13.(2h)

B団体参画 **ワークショップ**

～ 冬休み ～

2003.1.10.(2h)

今後の計画を立てる

2003.1.31.(2h)

C団体参画

「食べ物と命について」

2003.2.14. “発表会”

A団体の場合

単元：「報道スクープ！N地区の自然の行方は？！」

指導ポイント：・グループごとに追究テーマを確定させる。

・追究方法を考えさせる。(調査観察・情報収集等)



B団体の場合

単元：「報道スクープ！N地区の自然の行方は?!」

指導ポイント：
・グループで行っている調査学習のテーマ(示したいこと)を明確に認識させる。

・自分たちが調査している事が、大変意味のあるものであることに気づいてほしい。

・地域に向けて発信することの価値に気づいてほしい。

【作業の説明】



【作業中の生徒】



C団体の場合

単元：「報道スクープ！N地区の自然の行方は?!」

指導ポイント：・地産地消の意味を理解すること。

・人間と他の生き物がどのように関わっているか考える。

【活動の様子-A班】

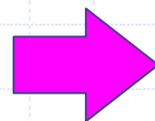


【授業のまとめ-A班】



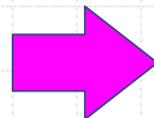
かかわり方の特徴

質問・回答をテンポ良く繰り返し、話し合いを進めていくタイプ。



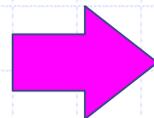
司会進行型

部分的にアドバイスをするタイプ。



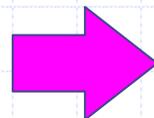
自主支援型

テーマについての解決策を生徒たちが考える前に話すタイプ。



結論先行型

専門的知識を一方向的に話すタイプ。



知識伝達型

事例①：自主支援型

S 1 : あれ？水どこやった？

S 2 : 水？

これと、どれとったんだっけ？

S 3 : これと、これ。

S 2 : 調べる？

S 3 : うん。

S 6 : 水を顕微鏡で調べて、微生物死ぬんじゃね？

S 2 : 死んでると思うよ。

S 5 : 一週間前に死んでると思う。

N : **一週間前にとって来たの？**

S 6 : うん。

N : **そのまま放置なの？**

S 1 : はい。

N : **むしろ増えていると思うよ。俺は。** →

S : (笑う)

生徒同士で話し合いが行われ、生徒が考えて出した結果（予測）が出ている。

専門的知識を用いたアドバイスをしている。

事例②：知識伝達型

S 2 : テーマについて

S 3 : テーマってなんだろう

N : テーマ。ゴミと・・・どうする？

んじゃ。その、松が枯れるってのは、酸性雨ってのもあるでしょ？ ね。そういうのから行くか。ゴミだけじゃなくって。酸性雨に対して、調べをしぼっていくか。みんなゴミゴミゴミってやってるでしょ。だから、防風林なんか写ってたよね。

S : 防砂林

N : あっ。防砂林か。

防砂林が写ってたから、そのあれをやって、それで、酸性雨の関係のものを調べたり。木がきちんと育たないと、ゴミやなんかを捨てちゃうときれいに育たないわけ。ね。

S :

N : だから、そういうふうなものを調べていくとかさ。

S :

【 少し時間が空く 】

S 4 : S 1, 何撮ってんの？

S 2 : (笑う)

事例②：知識伝達型

S 2 : テーマについて

S 3 : テーマってなんだろう

N : テーマ。ゴミと・・・どうする？

んじゃ。その、松が枯れるってのは、酸性雨ってのもあるでしょ？
ね。そういうのから行くか。ゴミだけじゃなくって。酸性雨に対して、
調べをしぼっていくか。みんなゴミゴミゴミってやってるでしょ。
だから、防風林なんか写ってたよね。

S : 防砂林

N : あっ。防砂林か。

防砂林が写ってたから、そのあれをやって、それで、酸性雨の関
係のものを調べたり。木がきちんと育たないと、ゴミやなんかを捨て
ちゃうときれいに育たないわけ。ね。

S :

N : だから、そういうふうなものを

S :

【 少し時間が空く 】

S 4 : S 1, 何撮ってるの？

S 2 : (笑う)

NPOメンバーに対する
反応が沈黙に変わり、つ
いには学習内容とは異なる
会話を行っている。

事例③：生徒の学び（関連）

- ◆ NPOメンバーと学習を行った後の授業における生徒同士の会話（フィールド学習にて）

S 1：これから何がわかるっていったっけ？

S 2：えっ！

S 1：これから何がわかるっていったっけ？

S 2：森林の木を切る。

だから、防砂林は何故あるのか？みたいな。

S 1：ああああ。

何が、何の種類が多いんだっけ？松が多いんだっけ？

S 2：松が多いって言った。

考察 ①

NPOメンバーと学習した内容とフィールドの実態と関連させて学んでいる。

NPOの専門性と柔軟性は、生徒の興味・関心を高めることができる。

知識伝達型や結論先行型の支援は、生徒の学習意欲を低下させる。

NPOの授業参画

※ ☆ : コーディネータ的存在

	A団体	C団体	B団体
打ち合わせ せ方法			
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・教員退職者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職経験なし ・主婦が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職経験なし ・全員20代と若い
団体内	<ul style="list-style-type: none"> ・行わない 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に1回 ・事後はなし 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前は平均4回 ・事後反省会あり
生徒との かわり	<ul style="list-style-type: none"> ・授業当日のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業当日のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に訪問(1回)

授業の様子（教師の協力体制）

（1）B団体の場合

NPOの方がアドバイス仕切れなかったところを、フォローしている様子が見られた。

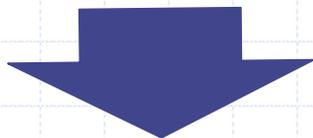


協力

授業の様子（教師の協力体制）

（2）A・C団体の場合

各班の巡視を行い、様子を伺っている。
授業中は、ほとんど口を出さない。
生徒指導的な事も任せている。



まるなげ

NPO団体への意識調査から

学校の受け入れ体制について

評価している点

他団体やNPO等と積極的に取り入れながら学習を進めていること。

生徒自身に考えさせる「自主自立」を感じる
こと。

改善を求めている点

打ち合わせの状態からまるなげをするのではなく、大まかでも目的を持ってほしい。

活動の主体となっている教員と打ち合わせを行いたい。

ワークショップだったためか、生徒へのかかわりがなかった。

考察

授業をNPOに一任する要因

NPOメンバーに教職経験者が多い。

教師は、NPOメンバーと生徒のかかわりを重視している。

教師は、NPOの授業展開を評価している。

まとめ

子ども自身が感じる・体験することの重要性

生徒の学びは、フィールド調査や実験を通して実際に見ること、教科や家庭、NPOとの学習等で学んだ内容を関連させながら学びを深めている。

地域に根付くNPO

NPOのメンバーは、地元ならではの適切な情報提供をしてくれるため、細やかな支援ができる。

情報交換の必要性

学習支援を行うNPOと学校が双方に抱く期待や不安を交換し合う、機会が少ない。

今後の課題

学校と学習支援活動組織との協力体制

- ・ 学校と学習支援活動組織（NPO）の協力体制が、効果的に作用している学校の実情を明らかにし、子どもの学びの様相を明らかにする。